

地理歴史

教科	科目	単位数	履修年次・選択群	履修区分
地理歴史	日本史探究	4	2年次・F群	選択
使用教科書（出版社）		副教材（準備するもの）		履修の条件・連絡
高等学校 日本史探究（清水書院）		高等学校 日本史探究ワークノート（清水書院） 写真資料館 日本史のアーカイブ（東京法令出版）		<ul style="list-style-type: none"> 歴史総合を履修していなければ履修することができない。 歴史に興味を持ち、日本史を詳しく学ぼうとする意欲のある生徒を求める。

1 科目の目標と評価の観点

目 標		
日本の歴史を探究する活動を通して、国際社会を主体的に生きる平和で民主的な公民としての資質・能力を育成することを旨とする。		
評価の観点及びその主旨		
1. 知識・技能	2. 思考・判断・表現	3. 主体的に学習に取り組む態度
我が国の歴史の展開に関する諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解しているとともに、調査や諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる。	我が国の歴史の展開に関する事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し、その解決に向けて構想したり、それらを基に議論する力を養う。	我が国の歴史の展開に関する諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に課題を解決しようとする主体性を養う。

2 学習計画と観点別評価項目

学年	学期	学習内容（単元・項目）	月	学習のねらい	評価の観点
1	1	1章 黎明期の日本列島と歴史的環境	4	・黎明期の日本列島の歴史的環境と文化の形成、原始社会の特色を理解する。	1 2 3
		2章 歴史資料と原始・古代の展望	5	・原始・古代の特色を示す適切な歴史資料を基に、資料から歴史に関する情報を収集し、読み取る技能を身に付ける。	1 2
		3章 古代の国家・社会の展開と画期 1節 古代国家の形成と東アジア 2節 古代国家の推移と社会の変化	6 7	・国家の形成と古墳文化、律令体制の成立過程と諸文化の形成などを基に、古代の政治・社会や文化の特色を理解する。	1 2 3
	2	1章 中世への転換と歴史的環境	9	・権力の主体の変化、東アジアとの関わりなどに着目して、古代から中世の国家・社会の変容について、多面的・多角的に考察し、表現する。	1 2
		2章 歴史資料と中世の展望		・歴史資料と中世の展望について、見通しを持って学習に取り組み、課題を主体的に追究する。	1 3
		3章 中世の国家社会の展開と画期 1節 武家政権の成立と展開 2節 武家政権の変容と中世の社会	10	・武家政権の成立と展開、産業の発達、宗教や文化の展開などを基に、武家政権の伸長、中世の社会や文化の特色を理解する。	1 2 3
3	1章 近世への転換と歴史的環境	11	・政治・経済政策や対外関係を基に中世から近世への時代の転換を理解する。	1 2 3	
	2章 歴史資料と近世の展望		・歴史資料の特性を踏まえ、資料を通して読み取れる情報から、近世の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現する。	1 2 3	
	3章 近世の国家・社会の展開と画期 1節 幕藩体制の成立と近世の社会 2節 幕藩体制の動揺と社会の変化	12	・近世の政治や社会の変容、近代化の基盤について、見通しを持って学習に取り組み、課題を主体的に追究する。	1 2 3	

令和5年度 シラバス

愛媛県立新居浜南高等学校

3 学 期	第4編 近現代の地域 ・日本 と世界	1章 近代への転換と歴史的環境	1	・近代への転換と歴史的環境について、見通しを持って学習に取り組み。課題を主体的に追究する。	1 2 3
		2章 歴史資料と近代の展望		・近代の特色を示す適切な歴史資料を基に、資料から歴史に関わる情報を収集し、読み取る技能を身に付ける。	1 2
		3章 近現代の地域・日本と世界の画期と構造	2	・第二次世界大戦に至るまでや戦時中の政治や社会、国民生活の変容について、見通しを持って学習に取り組み、課題を主体的に追究する。	1 2 3
		1節 近代国家の形成 2節 政党政治と大衆社会 3節 第二次世界大戦と日本の社会 4節 現代の日本と世界			
		4章 近現代の歴史の画期	3	・これまでの学習を振り返るとともに科目のまとめである次章へのつながりを見いだす。	1 2 3
		5章 現代の日本の課題と探究		・これまでの学習の成果を生かし、主題に対する歴史的経緯を踏まえて、現代日本の課題を理解する。	1 2 3
学 習 評 価	観点	1. 知識・技能	2. 思考・判断・表現	3. 主体的に学習に取り組む態度	
	規 準	○授業で学んだことを理解している。 ○インターネットや文献などから情報を収集できる。 ○図や資料を適切に読み取り、授業で活用できる。	○収集した情報を的確に理解し、整理・分析することができる。 ○分析・考察したことを効果的に説明することができる。 ○自ら課題を設定し、その解決方法について考察できる。	○学習の目標を理解し、真面目に取り組むことができる。 ○積極的な発言や行動ができる。 ○他とうまく協働しながら、学習を進めている。	
	手 段	・定期テストや授業中の応答 ノートなど	・定期テストや授業中の応答、 ノート、課題レポートなど	・授業中の応答や態度、ノート、 課題レポートなど	
	価	単元末や学期末及び年次末における評価の総括方法 「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」から総合的に評価する。			
学習上の 留意点	・毎時間教科書・資料集とタブレットを持参する。ワークノートは予習課題とし、授業で解答する。 ・提出物（ノート、課題レポート）は期限内に提出すること。				